

共生システム理工学専攻（博士後期課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

平成 22 年 1 月 13 日共生システム理工学研究科委員会制定
平成 25 年 4 月 10 日共生システム理工学研究科委員会改正
平成 29 年 4 月 12 日共生システム理工学研究科委員会改正
令和 2 年 7 月 8 日共生システム理工学研究科委員会改正
令和 3 年 9 月 17 日共生システム理工学研究科委員会改正

教育目標と求める学生像

共生システム理工学専攻博士後期課程では、持続循環型社会の実現や、少子・高齢化問題への対策など、21 世紀の課題解決に貢献できる人材の養成を目的としています。このような複雑で複合的な要因を有する課題の解決のためには、これまでの理工系大学院の中心であった自然科学に関する高度な専門知識および研究能力だけでなく、人間科学・社会科学的な素養も身に付けた国際的に活躍できる高度専門職業人・研究者が求められています。

そこで、人 - 産業 - 環境の共生を理念とし、共生数理システム領域と共生環境システム領域の 2 領域で研究プロジェクトを実施し、実践的な活動の機会を通して、自立して研究・開発を行う能力のある人材を養成します。これにより、人を中心とし、産業や環境との共生を考慮したシステム科学の創造・発展・継承を行い、国際的な貢献に資することを目指しています。

2 領域の特色と目標は以下の通りです。

[共生数理システム領域]

本領域では、機械・電子・制御・数理情報・コンピュータ科学に加え、経営情報システム、技術経営（MOT）、生産管理とロジスティクスシステム等に関する教育・研究を行い、通信ネットワーク・ソフトウェアなどの情報通信システム、産業用ロボットなどの機械システム、医療・福祉システム、生産システム、輸送システム等さまざまな産業分野において地域社会のニーズに応え人と共生可能な工学系システムの創出を支える、卓越した技術開発力と高度な研究能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

[共生環境システム領域]

本領域では、機能性材料・資源循環・エネルギー技術等に関する教育・研究を行い、地域特性をも活かした持続循環型産業システムの創生に関する幅広い知識を備え、高度な工学的研究・開発能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。また、環境システム分野の幅広い知識に加え、水や物質循環に沿った環境変化の実態についての卓越したフィールド調査能力、環境保全や汚染浄化・環境再生等に関する解析・評価能力、衛星観測やモデリング等の手法を活用した解析・予測能力、環境情報を活用した持続可能な人間環境システムの管理・計画能力、人間の心理・生理的仕組みを解明する能力など、高度な専門的能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

入試の際に求める知識・技能・意欲

持続循環型社会の実現、少子・高齢化問題への対策などの 21 世紀の課題解決に貢献できる

人材となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と博士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・当該分野の学習の前提となる、理工系大学院博士前期（修士）課程までに獲得すべき基礎的な知識と研究経験

- ・理解力，柔軟な思考力，応用力，および表現力

- ・現代社会の課題を理工学的に解決するため，多様な人々と協働して積極的に取り組む意欲と，学修・研究に対する主体性

入学者選抜の基本方針

一般入試，社会人特別入試の枠を設け，研究に関する口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜を行います。

口頭発表では，これまでの研究成果および入学後の研究内容について説明を求め，口頭試問では，口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について重点的に試問を行います。口頭発表・口頭試問を通じ，上記に示す学生像および求める知識・技能・意欲を備えているか総合的に評価を行います。